

一八 田中 義弘



田中義弘は、W・R・

ランバスより最初に受

洗した五人の日本人の

うちの一人であり、南

美^{メソヂスト}以、日本ミツシヨ

ン山のファイランデル・ス

より選ばれて、東京青

ミス・メソヂスト一致

神学校に入学し、同一

一八九一年六月第一回卒業記念
アルバム「旧関西学院から上ヶ原」より

致神学校から中山栄之助、鶴崎庚午郎とともに、創立された関西学院へ編入し、関西学院神学部第一回の卒業生となった。在学中は、関西学院基督教青年会で活躍する一方、勸士の免状を得て地方伝道に従事し、さらに地方伝道者の資格を得て、

卒業と同時に広島教会補助伝道者として赴任した。また、健康上の理由から伝道活動に従事できなかった時期は、教員として活動し、その経験から関西学院中学部長として活

躍した。このように田中義弘は、「基督教ノ伝道ニ従事セントスル者ヲ養成シ、且ツ基督教ノ主義ニ拠リテ日本青年ニ知徳兼備ノ教育ヲ授クルニアリ」(第二款)と関西学院憲法が謳う二つの目的をとともに実現した最初の人物であった。

I はじめに

一八七〇年に広島市に生まれた田中義弘は、小中学校時代を広島で過ごして後、海軍兵学校入学の希望をもち、大阪の第三高等中学校(予科)に入学したものの、病を得て広島に帰郷した。当時広島で伝導活動をしていたW・R・ランバスと出会い、洗礼を受けた。再び上阪した田中は、関西学院創立時に校主となった中村平三郎が経営し、W・R・ランバスやB・W・ウオータスも教鞭をとっていた大阪予備校の教師となった。

ウオータスの大分尋常中学校赴任に際し、通訳として同行し、大分伝道にも協力した。そのような協力もあって、一八八八年に南美以日本ミツシヨより選ばれ、八六年にすでに合同により設置されたファイランデル・スミス・メソヂスト一致神学校に入学し、八九年の創立にともない関西

学院神学部に編入した。在学中の田中は、勉学に励む一方、関西学院基督教青年会で活躍し、伝道にも努め、さらには山口美以教会の英語学校設立にも協力した。

一八九一年六月九日に神学部第一期生として卒業した後、広島教会補助伝道者として赴任した。神戸美以教会に移り、その自給に努め、日本で最初の自給教会の牧師となった。さらに一八九八年には、大阪東部美以教会主任牧師に任命された。さらに一九〇六年には京都中央基督教会（後の日本メソヂスト京都中央教会）の新会堂建設に着手し、伏見講義所を開設するなど「今日の京都中央教会は、田中君の辛苦と努力とに由って成つた」と信じられている。

他方、年会での活躍もめざましかった。一八九七年には、大阪巡回区主任伝道者に任命され、その後も一九〇〇年に松山巡回区へ、〇五年には京都巡回区に転任した。さらに一三年に近畿部長に任命され、一五年に日曜学校共励会局長に選出され、さらに二六年には日本メソヂスト教会教育委員長に就任するなど活躍著しいものがあつた。

また、大阪予備校、大分尋常中学校、山口美以教会の英語学校、広島女学校の牧師兼教師、広島の高専英学院で教育者として働らき、一九〇七年九月には、関西学院神学部で牧会学講師を嘱託された。田中は、その後も、〇九年四

月には関西学院神学部神学科の教師となり、ヴァンダビルト大学に牧会学・説教学研究のため派遣され、帰国後の一一年四月にC・J・L・ベーツに代わり神学部礼拝主事に就任。また神学部教授として実践神学を担当した。その後、二〇年四月には関西学院中学位長に就任、二二年には兵庫県教育会（現・教育委員会）の評議員並に幹事に就任し教育界にも貢献するなど、その死までその地位にあり、中学部教育に尽瘁した。

II 略歴^①

一八七〇年一〇月二日

田中秀造・ツネの長男（幼名は慎太郎）として広島市稲荷町に生まれた。

一八八六年頃

小・中学校時代を広島で過ごし、海軍兵学校への入学を希望し上阪。

一八八六年開設の第三高等中学校（予科）に学ぶ。海軍兵学校受験のため上京した際、急病のため受験をあきらめ広島に帰郷^②。

一八八七年 六月二六日

W・R・ランバス (Wambuth) より洗礼を受ける^③。受洗後、再び上阪、

一八八八年 三月

私立大阪予備校の教師となる。同校で教師をしていたB・W・ウォータス(Waters)と出会う。

ウォータスが大分尋常中学校に赴任する際通訳として同行し、大分美以教会での伝道にも協力した。後に田中の妻となる奈古寛(ユタカ)は大分美以教会で、七月二一日W・R・ランバスより受洗、日本人最初の受洗者五人のうちの一人であった。七月上旬ウォータスは神戸に帰り、田中、奈古一家も九月中旬相次ぎ大分を去り広島に帰郷。

南美以日本ミッションより選ばれて、東京青山のフィランデル・スミス・メソヂスト一致神学校(8)に入学。

Annual Meeting 3rd. で通訳に選出。

一八八九年 九月 六日

九月 二八日

関西学院創立、フィランデル・スミス・メソヂスト一致神学校から中山栄之助、鶴崎庚午郎らとともに、創立された関西学院へ編入。

二月三日

一八八九年 九月 六日

一八八九年 九月 六日

基督教青年同盟社(YMCA)に加盟

二三日

申請を提出。
関西学院基督教青年会(以下で「基督教青年会」と略記する)の副会長兼會計となる。会長は中山栄之助、通信兼記録書記は鶴崎庚午郎、祈祷会委員は太田義三郎・住田吉太郎。

基督教青年会第二回例会において、「人間ト自然トノ関係」を講演。

基督教青年会第三回例会において、「宝玉ノ価値」を講演。

大阪青年会館で開催された基督教青年会聯合大会に出席。

基督教青年会の役員改選で会長に就任。

山口美以教会(現・日本基督教団山口信愛教会)の英語学校設立に際しK・ハーラン(Harlan)を補佐。

神学部第一期生として卒業。当時の神学生は伝道者としての任務を負っていたので最初は勸士の免状を受け、さらに地方伝道者の資格を得て、卒業と同時に広島教会補助伝道者として赴任。

六月 九日

二月三日

基督教青年同盟社(YMCA)に加盟

- 八月九日 Annual Meeting 5th. ⑮、主任牧師 ウォータスの補助牧師に指名され、広島伝道に励む。この頃神戸に行く船上で日野原善輔と出合い、日野原の関西学院入学の機会をつくる。⁽¹⁷⁾
- 一八九二年 七月 第一期南美以教会日本年会（神戸）において、伝道者（教師）試補に登用され、広島、山口（大島・柳井）で活動。⁽¹⁸⁾
- 一八九三年 七月 第二期南美以教会日本年会（広島）で、神戸美以教会（現・日本基督教団神戸栄光教会）牧師に任命。⁽¹⁹⁾
- 一八九四年 八月二四日 関西学院第五回評議員会において書記に就任。⁽²⁰⁾
- 八月 第三期南美以教会日本年会（関西学院）でギャロウエイ監督から執事の按手礼。⁽²¹⁾
- 九月二八日 吉岡美国の司式で奈古寛と結婚。⁽²²⁾
- 一〇月二日 神戸美以教会は自給を達成し、自給した教会の最初の日本人牧師となる。⁽²³⁾
- 一八九六年一〇月二日 長男明弘誕生（翌年二月死去）。⁽²⁴⁾
- 一〇月 第五期南美以教会日本年会（広島）で、長老（正教師）となる。⁽²⁵⁾
- 一八九七年 九月 第六期南美以教会日本年会（松山）で、大阪巡回区主任伝道者に任命。⁽²⁶⁾
- 二月一日 長女喜美代誕生（後に、関西学院中部部長畑敏三と結婚）。⁽²⁷⁾
- 一八九八年 八月二日 第一回関西学院同窓懇親会に出席。⁽²⁸⁾
- 八月 第七期南美以教会日本年会（神戸）で、大阪東部美以教会（現・日本基督教団東梅田教会）主任牧師に任命。⁽²⁹⁾
- 一九〇〇年 三月二五日 神戸美以教会で卒業の説教。⁽³⁰⁾
- 七月 「青山神学校今昔ノ感」を『護教』に掲載。⁽³¹⁾
- 八月 第九期南美以教会日本年会（広島女学校）で松山巡回区に転任。⁽³²⁾
- 一九〇二年一〇月二九日 秋季大挙伝道の一部が山口美以教会で開催（十一月三日）され、「基督教と社会」、「人の品性」、「我信ずる基督」、「基督の実」、「基督教徒とは何ぞや」等の説教。⁽³³⁾
- 一九〇二年 八月 健康を害した為、年会員を辞し広島に帰る。高等英学院を開校。⁽³⁴⁾
- 一九〇三年 五月三日 次男彰寛誕生（後年、関西学院大学教授

授)。(35)

六月二八日

広島美以教会に於いてウエスレー記念会を開催、「ウエスレーと教育」を演説。(36)

九月

第二期南美以教会日本年会(広島女学校)で地方伝道者となる。広島駐在所の掘峰橘牧師の病氣休養のため事情の許す限りこの教会に盡力。また、広島女学校の牧師兼教師に就任。(37)

一九〇四年 八月

第一三期南美以教会日本年会(神戸)で年会に復帰し、山口美以教会牧師に任命。(38) W・J・キャラハン(Callahan)もこの月山口に着任。田中も協力して高等学校の学生伝道に盡力。(39) 後に関西学院図書館の初代司書として勤務した磯部泰治も、山口でキャラハンらに英語を学ぶ。(40)

一九〇五年 五月 七日

安息日礼拝説教「來書一二一〇」。(41)

二八日

安息日礼拝説教「羅書八五」。(42)

九月

第一四期南美以教会日本年会(関西学院)で京都巡回区に転任。(43)

一九〇六年 一月

京都中央基督教会(現・日本基督教団京都御幸町教会)の新会堂建設に着手。

三月 二日

伏見講義所の開設。(44)

五月 一六日

三男輝弘誕生。(45)

一九〇七年 一月 二五日

父秀造死去。(46)

五月 三日

三派合同による日本メソヂスト教会の設立総会、東京青山で開催。(47)

九月

関西学院神学部で牧会学講師を嘱託。(48)

一〇月 七日

日本メソヂスト京都中央教会、京都御幸町に移転。(49)

一九〇八年 一月

「如何にして求道者を養成すべき乎」『護教』第八六〇号、一九〇八年一月一八日、七頁)。

三月

第一回日本メソヂスト教会西部年会(神戸)開催。(50)

一九〇九年 三月

第二回日本メソヂスト教会西部年会(福岡)開催、日本メソヂスト京都中央教会の牧師を退任。また、関西学院職員として日本メソヂスト神戸教会四季会に所属。(51)

四月

関西学院神学部の教師(神学科)に就任。

任。説教学・牧会学・教会政治学・条
例例文を担当。⁽⁵¹⁾

四月一五日 関西学院よりヴァンダビルト大学に

牧会学・説教学研究のため派遣。⁽⁵²⁾

四月一七日

横浜より天洋丸で渡米。⁽⁵³⁾

五月一旬

「ナシビル(マ、マ)に向はれたり」。⁽⁵⁴⁾

七月

「米国雑感―加州より聖路易市まで(セントルイス)

」、「セントルイス市のウェンライト氏

を訪問」、「ナッシュビル市より」、「マ

シューズ教授の郷里を訪問」を『護教』⁽⁵⁵⁾

に掲載。

二月一九日

「加奈多及北米学生大会（一）、（二）、

（三）」に出席（一月二日）を『護教』⁽⁵⁶⁾

に掲載。

一九〇〇年 一月

「米国の一年会を訪ふ」（『護教』第

九六三号、一八九八年一月八日、九頁）

ヴァンダビルト大学神学部で実践神学

を研鑽中。⁽⁵⁷⁾

五月

「南美以教会総会雑感…ノースカロラ

イナ州アッシュビル市(マ、マ)で開催された第

一六回総会に本多庸一監督・堀峰橘氏

と共に参加。W・R・ランバス氏、監
督に選任される。」などの報告を『護教』⁽⁵⁸⁾

に掲載。

「第一六回南美以教会総会記要（一）

）（二）」を『護教』に掲載。⁽⁵⁹⁾

ワシントンで開催された「第六回万国

日曜学校大会」に本田監督等と参加、
開会式の祝祷。⁽⁶⁰⁾

近信報告「六月一五日〜九月二日まで

シカゴ大学にて勉強致し候」。⁽⁶¹⁾

「今夏大水害と迷信の解除」論據(ルカ)

一三、一〜五、約八、一〜一一」を『護

教』に掲載。⁽⁶²⁾

「シカゴ大学を回り、桑港(サンフランシスコ)から

一月中旬帰国の予定」。⁽⁶³⁾

桑港発、天洋丸にて帰国。⁽⁶⁴⁾

無事帰朝。⁽⁶⁵⁾

東京メソヂスト教役者会で「米国の宗

教界」の題で所感。⁽⁶⁶⁾

一一日 関西学院に立ち寄り、一五日広島に帰

郷。⁽⁶⁶⁾

- 八月 家族とともに神戸加納町に移る。C・J・L・ベーツ (Bates) に代わり神学部礼拝主事に就任。聖書研究、祈祷会、日曜学校等の改善に尽力。⁽⁶⁷⁾ 実践神学を教授。⁽⁶⁸⁾
- 八月 「船橋雄君の「聖書教授問題」」「護教」第一〇四四号) を掲載 (「護教」第一〇四七号、一九一一年八月一九日、三頁)。
- 一〇月 日本メソヂスト教会第二回総会 (中央会堂) における議員懇談会の演題「総会に希望したい三原則」(要旨) を掲載 (『護教』第一〇五五号、一九一一年一〇月二二日、一三三頁)。
- 一九一三年 三月 第六回日本メソヂスト教会西部年会 (大分) で近畿部長に任命。⁽⁶⁹⁾
- 一九一四年一〇月 一ヶ月ほど朝鮮に旅行伝道を試み、同窓たちと旧交を温める。朝鮮部会に派遣され、部会および巡回説教に尽力する。⁽⁷⁰⁾
- 一五〇 第七回日本メソヂスト朝鮮部会 (京城)
- 二月 に参加、「使徒行伝について」、「天下公道」等について説教 (一八日)。⁽⁷²⁾
- 二月 「朝鮮紀行」を掲載 (『護教』第一二一六号、一九一四年一月二〇日、七頁)。
- 一九一五年一〇月 日本メソヂスト教会第三回総会 (青山学院) で日曜学校共励会局長に選出。⁽⁷³⁾
- 一九一六年 九月 「護教梗概案内 (説教構案) (一) (一〇)」を掲載 (『護教』第一三一一〜一三六三号、一九一六年九月一五日〜一九一七年九月二一日)。
- 一九一九年一〇月 日本メソヂスト教会第四回総会 (銀座教会) で日曜学校共励会局長に再任。⁽⁷⁴⁾
- 一九二〇年 四月 一日 関西学院中学部長に就任
- 一九二二年 八月 一九日 夏の第六回全国中等学校優勝野球大会で優勝。⁽⁷⁵⁾
- 一九二二年 二月 全国少年野球協会主事に選出、後に副会長に就任。⁽⁷⁶⁾
- 一九二二年 一月 一日 「恩師監督ランバス博士を追悼す」を掲載 (『教界時報』第一五七六号、一九二二年一月一日)。⁽⁷⁷⁾

一九三三年 四月

この頃兵庫県教育会評議員ならびに幹事に就任し、教育界にも貢献。⁽⁷⁸⁾

一九三三年 九月 一日

関東大震災発生し、部長として被災地生徒を中学部に臨時収容。⁽⁷⁹⁾

一九三五年 七月 二七日

第一回三日月キャンプ（小豆島）を開催、以後第一五回（一九四〇年）まで続く。⁽⁸⁰⁾

一九二六年 二月

松本益吉博士の急逝（前年一月二七日）により、後任として日本メソヂスト教会教育委員長に就任、翌年組織替えにより教育局長に選任された。⁽⁸¹⁾

四月 三日

米国南メソヂスト監督教会総会参列のため神戸より天洋丸で渡米。⁽⁸²⁾

六月

「外遊だより（一）（四）」を掲載（『教界時報』第一八〇四〜一八〇七号、一九二六年六月四日〜二五日、各五、五、四、三頁）

八月

帰朝。⁽⁸³⁾

二二日

銀座教会、横浜教会で説教。⁽⁸³⁾

二三日

横浜発海路で神戸に帰着。⁽⁸³⁾

二月 二四日

神戸東部教会（現・日本基督教団神戸

一九二七年 九月 三日

東部教会）で開催された、堀牧師伝道三〇年記念祝会で、「神の人―羅馬書一〇〜一五」を説教。⁽⁸⁴⁾

理事会で中学部の上ヶ原移転が決定。⁽⁸⁵⁾

上ヶ原移転問題について、中村賢二郎によれば「田中君は、中学部は多大な影響を被る。在学生の大半は神戸に在住しているし、何よりも母校のごとき神の啓示によって建てられたこの教育事業は単なる経営体ではなく、その創立者の建学の精神とその発祥の地を守るべきである。中学部だけでも原田の森に留まり、神の御胸に従うべきである」と。当初反対であった田中も結局は学院全体の将来のためには全校あげの移転に同意。⁽⁸⁶⁾

一九二八年 二月 二九日

四月 五日

上ヶ原新校地において起工式を挙行。第五回全国選抜中等学校野球大会において和歌山中学と決勝を戦い優勝。

六月 二七日

中学部生徒等は優勝した褒美に眞鍋教頭を団長としてアメリカ太平洋沿岸各

地を派遣旅行（～九月三日）⁽⁸⁷⁾。

一九二九年 三月 九日

原田の森最後、また田中にとつても最後になる中学部第三二六回卒業式挙行。

三月 二十五日

上ヶ原へ移転開始（～二六日）⁽⁸⁸⁾。

夏

杉原成義を通じて「中学部の大講堂の正面に一の扁額を掲ぐる為に、北大総長佐藤昌介博士に揮毫を依頼して……博士、欣然快諾、『敬神愛人』の四大文字を書いて田中君に送られた」（『教界時報』第一九八八号、一九三〇年一月一七日、五頁）。

一九三〇年 一月 三日

狭心症のため死去。

一月 五日

関西学院学院葬挙行⁽⁸⁹⁾。

一月

杉原成義「田中義弘君の死を悼む」を掲載（前掲『教界時報』第一九八八号、五頁）⁽⁹⁰⁾。

III おわりに

杉原成義はその追悼文の中で「見るからに有為の青年であり」「神学校（フライランデル・スミス・メソヂスト一致

神学校）に於いて尊敬の的と成った」と若き田中を回想した。その理由に「其の当時より英語は頗る達者」で「ニュートン博士の旧約釈義の時には、邦語科生の為に、博士の通訳の労を取った」というだけでなく、「何時も田中君の態度は、凡てが長者の風を具備して、一行の指導者」であったことを挙げている。さらに杉原は、伝道師・牧師としての田中を賞賛するとともに、「同君の才幹力量を致すに最も所を得たもの」として、関西学院中学部の部長としての仕事を挙げる。「教育者として、而も宗教の精神を以ての教育者として、又深い信仰生活を体験せる基督的教育者として」の仕事が高く評価するのである。それを示すかのように、次男田中彰寛が牧師の道ではなく教育者としての道を歩む決心をした際に、「お前は教師になっても伝道者の精神を忘れてはならない」と語った。「田中君の死は、我教界に取つても我教育界に取ても、大なる損失であると信じます。神よ、願はくば、此の人に代わるべき人物を與へ給へと祈ることは、余の衷心の願ひであります」と杉原は結ぶ。この杉原の衷心からの願いはかなえられているのであろうか。

【注】

(1) この略歴の記述にあたっては、田中義弘「自筆 家族構成」(大正元年作成)、『大分基督教会歴史(巻)』(大分教会所蔵、学院史編纂室資料、Y21-01)、『神戸栄光教会七十年史』(日本基督教団神戸栄光教会、一九五八)、『信仰三十年基督者列伝』(警醒社、一九二二、二四頁)、『第二三回西部年会記録』(一九三〇、巻頭頁)等を利用した。

(2) 在籍した小学校は不明であるが、中学校は、一八八一年当時県内には広島中学校と福山中学校の二校だけであったので、おそらく広島中学校を卒業したと思われる。前掲書『神戸栄光教会七十年史』(五八〜九頁)、『図説 広島市の歴史』(郷土出版社、二〇〇一、一七一頁)。また、第三高等中学校は、一八八六年の中学校令制定により二年制(本科)としてスタートした。ただこの頃の高等中学校は尋常中学校から直ちに入学することは不可能であるくらい程度の高いいものであった。その前身である大阪中学校は正規の官立中学校の最初のものでとして発足し、第三高等中学校として改称されても(一八八五年に大学分校と組織変更している)内容はあまり変わりなく、大阪中学校の内容がそのまま第三高等中学校に継承されたといえる。学校は本科二年と予科三年にわかれ、入学資格は予科が一四歳、本科が一七歳以上と定められた(井上琢智「文部行政と関西学院」(『関西学院史紀要』第

三号、二〇〜二二頁)、『大阪府教育百年史』第一巻、概説編(大阪府教育委員会、一九七三、六四六〜五〇頁)、『学制八十年史』(文部省、一九五四、一三〇〜三二頁、八一七〜一九頁、図表一〇二八頁)、『目でみる教育のあゆみ』(文部省、一九六七、三六頁)、『広島女学院創立五十周年記念誌』(広島女学院、一九三六、一六〜一七頁)、『広島中央教会五十年史』(日本メソヂスト広島中央教会、一九三六、四頁)。海軍兵学校については、明治政府は一八六九年七月海軍操練所を創立し、同年九月に東京築地の元芸州屋敷に置いた。翌七〇年一月、海軍兵学校と改称、翌七一年一月、太政官布達をもって「海軍兵学校規則」を公布し第四条で「幼年学舎は一五歳以上一九歳以下の有志の者を教導し……」と規定した。一八七六年八月三十一日、海軍兵学校と改称。一八八三年六月、東京で最初の赤煉瓦造の生徒館が新築落成するなど、海軍兵学校の内容は設備概観共々充実整備された。しかし、一八八六年一月、海軍兵学校次長兼教務総理の伊地知弘一中佐の江田島移転への要望が強くあり、同九月移転が本決まりとなった。一月工事に着工、一八八八年八月一日をもって海軍兵学校は江田島本浦の新校舎に移され、八月二三日に開校された(『海軍兵学校沿革』原書房、一九六八、一〜四〇七頁)。

(3) 前掲書『神戸栄光教会七十年史』(五八〜五九頁)では

J・W・ランバスから洗礼を受けるとしている。なお、同年五月は太田義三郎、松本益吉等が、聖誕節には住田吉太郎（後に三戸と改姓）が、六月一二日には中山栄之助が受洗。中條順子（義弘の孫）氏の話（『学院史編纂室第二〇回研究月例会レジュメ』二〇〇六年一月一日）では、田中の基督教入信については、父秀造の影響とされているが、前掲書『広島中央教会五十年史』（四頁）によると田中のほうが早く洗礼を受けている。ただ、前掲書『広島女学院創立五十周年記念誌』（一七頁）では、父秀造は創立の頃から書記及び事務一般の仕事を引き受けている真面目な人物だったと書かれているので、基督教に深い理解がある家庭であったことが、彼の受洗につながったといえる。

(4) 正式には「予備学校」。校長は中村平三郎で、キリスト教主義の英語を中心とする学校であった。東区博労町にあり、分校が西区京町堀上通にあった。『大阪学校便覧全』（江本巧、一八八八、国立国会図書館近代デジタルライブラリー）。中村はW・R・ランバスの大阪伝道で導かれ、一八八八年にO・A・デュークス(Dukes)より受洗し、その関係で「私立関西学院設立御願」で院主・幹事に就任することになった。この学校については、上司小剣は「(東区)博労町の板屋橋筋近くにあったキリスト教主義の大阪予備校に入学した・・・」としている(『大阪近

代文学事典』和泉書院、二〇〇五、八四頁)。

(5) B・W・ウォータス(Waters)は南メソヂストの宣教師。一八八七年一〇月二九日来日、翌年三月大分県尋常中学校の招聘に応じて大分に行ったが、官職であるので公開説教はできなかった。その年七月後任のS・H・ウェンライト(Wainright)と替わり神戸に帰る(『来日メソヂスト宣教師事典』教文館、一九九六、二八五頁)。大阪川口居留地一四番Aに一八九五年から一九九年まで住んでいる(井上琢智・遠藤トモ・西口忠「大阪在住外国人名簿一居留地時代 一八六八〜一八九九」、堀田暁生・西口忠『大阪川口居留地の研究』思文閣、一九九五、六三頁)。

(6) 奈古寛ノコヒロは、奈古佐兵衛の三女、一八七〇年九月二七日、和歌山県黒江村(現・南部町)に生まれ、広島英和女学校第一回卒業生である。『大分教会員名簿』(大分教会所蔵、学院史編纂室資料、Y21/OO)、前掲書『神戸栄光教会七十年史』(六〇頁)。

(7) これは八月神戸の宣教師会においてウォータスが広島巡回区に任用され、広島教区を担当したことによる。『大分基督教会歴史(老)』(大分教会所蔵、学院史編纂室資料、Y21/OO)、『大分教会の百年』(日本キリスト教団大分教会、一九八八、二〇〜二二頁)、『ウエンライト伝』(教文館、一九四〇、二二頁)、前掲書『広島中央教会五十年史』(四頁)、中村金次『南美宣教五十年

史』(神戸中央教会内南美宣教五十年記念運動事務所、一九三六、三四頁)、前掲書『広島女学院創立五十周年記念誌』(二六〜一九頁、五七八頁)。

- (8) フィランデル・スミス・メソヂスト一致神学校 (Philander Smith Biblical Institute Union Methodist Theological School) は、一八八六年にアメリカ・メソヂスト監督教会 (MEC) とカナダ・メソヂスト教会 (MCC) のそれぞれの神学校が連合し、東京青山の地に設立された。当時日本での伝道を新しく開始した南メソヂスト監督教会 (MECS) にも参加が求められ、一八八八年六月に加入をし、J・C・C・ニュートンが教員となった (*Minutes of the Annual Meeting of the Japan Mission of the Methodist Episcopal Church South*, 〈以下で *Year Book* と略記する〉、1888, p.4)、『老ランバス筆記 日本ミッション記録』(英文手書資料コピー、一八八六〜一八八九、二五頁、二八頁、学院史編纂室資料、AA/6-3)、『フィランデル・スミス・メソヂスト一致神学校要覧』(Union Methodist Theological School, 1888-9, pp.15-17) 関西学院百年史通史編I (一九九七、六一〜六五頁)。
- (9) *Year Book 1889*, p.3.
- (10) この転校生について鶴崎の記録(鶴崎庚午郎「祝辞」関西学報』第八号、一九〇九年二月、五〜八頁)によれば、田中義弘、中山栄之助、鶴崎庚午郎だけを記してある

が、他にも四名がいる。前掲書『関西学院百年史通史編I』六五頁、「関西学院神学生姓名録」(学院史編纂室資料、DA/6-1)、「創立時在籍者名簿」(学院史編纂室資料、DA/6-1)、「在学証書 神学部 一八八九〜一九〇八」(学院史編纂室資料、DA/6-1)。

- (11) 『基督教青年』第四号・第六号(基督教青年同盟社、一八八九・一九〇〇、二五頁、三二頁)。
- (12) 関西学院での活動については『関西学院青年会記録 自明治二二年一月〜至明治三二年六月』関西学院キリスト教教育史資料I(キリスト教主義教育研究室、一九七六)に詳しい。
- (13) 前掲書『関西学院青年会記録』関西学院キリスト教教育史資料I、三〜六頁。
- (14) 前掲書『関西学院青年会記録』関西学院キリスト教教育史資料I、八頁。
- (15) *Year Book 1891*, pp.14-15, p.39. なおK・ハーラン (Hartan) については、帰国後W・R・ランバスの私設秘書として二四年間勤めた(前掲書『来日メソヂスト宣教師事典』一〇六頁)。
- (16) 前掲書『広島中央教会五十年史』七頁、前掲書「神戸栄光教会七十年史」五九頁 *Year Book 1891*, p.5, p.12.
- (17) 日野原善輔「今に忘れ得ぬ思ひ出」(関西学院新聞—移転一周年記念号—)一九三〇)。日野原善輔について

- は『関西学院史紀要』第十四号、一五七〜七五頁を参照。
- (18) 『南美以日本年会記録』第一期（一八九二、一頁、一八頁）・*Year Book 1891*. p.5.
- (19) 『南美以日本年会記録』第二期（一八九三、九頁、一四頁）。「教職試補」は伝道師として三年以上伝道に従事するか神学校四年以上の学業を終え、教区または部会の推薦を得、年会の学科試験に合格した者であり、「執事」は「教職試補」として三年以上伝道し部会の推薦を得、年会の学科試験に合格して、年会の選挙により監督の按手を経た者であり、説教、洗礼の執行および「長老」を助け聖餐を執行する機能を持つ。さらに「長老」は、「執事」として三年以上伝道し年会の学科試験に合格した者で、年会の選挙により監督、長老の按手を経た者であり、説教、聖礼典執行の機能を有した。また、「伝道師」は、当局の任命で各地を巡回し、伝道に従事するものであり、四季会の推薦、部会の査察を受け、学科試験に合格してその証状を受けた。他に婦人伝道師、定住伝道師がある。「勸士」は、牧師の指導の下に伝道に従事し、教会会議の指名により、四季会の証状あるいは組長、幹事会の指名により牧師の証状によりこの職に付いた（土肥昭夫『京のある教会のあゆみ―京南・京北教会史―』（日本キリスト教団京北教会、一九八四、一八一頁）。
- (20) 『関西学院評議員会記録』（学院史編纂室資料、AB3-1）。
- (21) 『南美以教会日本年会記録』第三期、一八九四、一〇頁、二六頁。
- (22) 前掲書『神戸栄光教会七十年史』四四〜四五頁。
- (23) 前掲書『神戸栄光教会七十年史』六〇頁。
- (24) 前掲書『神戸栄光教会七十年史』六〇頁。
- (25) 『南美以日本年会記録』第五期、一八九六、一〇頁。
- (26) 『南美以日本年会記録』第六期、一八九七、一八頁。
- (27) 前掲『自筆 家族構成』前掲書『神戸栄光教会七十年史』六二頁。
- (28) 『関西学院同窓会報』第一号、一八九九、一〇頁。
- (29) 『南美以日本年会記録』第七期、一八九八、一四頁。
- (30) 『関西学院同窓会報』第三号、一九〇〇、六頁。なお、説教のタイトルは不明である。
- (31) 『護教』第四六八号、一九〇〇年七月二三日、一頁。
- (32) 『南美以日本年会記録』第九期、一八九九、二〇頁。
- (33) 『護教』第五三八号、一九〇一年一月一六日、七頁。
- (34) 前掲書『神戸栄光教会七十年史』六〇頁、『南美以日本年会記録』第一期（一九〇二、六頁、一八〜一九頁）。
- なお、広島で開いた「高等英学院」については、不明である。『広島中央教会五十年史』によれば、「当時エボース同盟会を組織し、教会の経済を助け、伝道の門戸を開くために英語会を起こし……」とあることから考えて、この英語会が「高等英学院」である可能性もある。

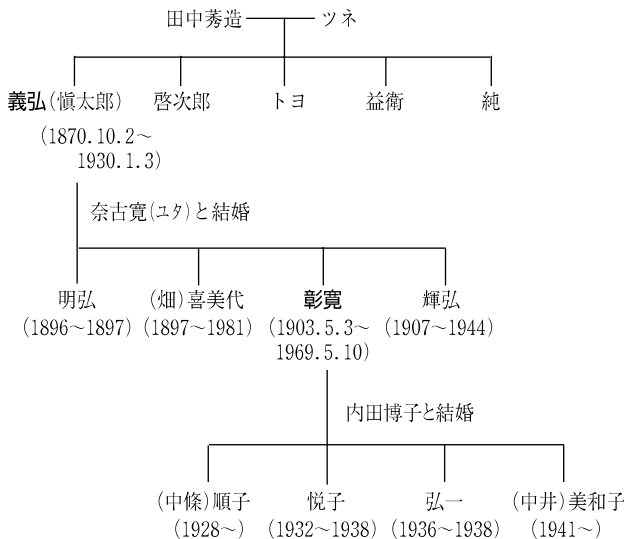
- (35) 前掲「自筆 家族構成」。田中彰寛は、旧制第三高等学校を経て、京都帝国大学文学部独文科に学び、一九二七年卒業、同年一年志願兵として一〇ヶ月入隊。一九二八年四月より関西学院専門部文学部のドイツ語の講師に就任。一九三三年に大学予科の新設に伴い同教授。一九三八年、日中戦争のため一ヶ年北支に出勤。一九四四年専門学校理工科新設に伴い同教授に就任。同年八月第二次大戦のため応召、約一ヶ年内勤。敗戦により一九四六年学院に帰任し、理工科で教鞭をとる。一九五一年の理工科廃止により、四月に設置された短期大学英文科教授に就任。一九五四年の短大廃止により経済学部教授に就任。シュバイツァー博士を訪問するなどシュバイツァー研究者であった。また、宗教音楽に造詣が深く、一九五一年に関西学院聖歌隊の発足とともに、聖歌隊長となった。また、日本基督教団賛美歌委員会専門委員として、賛美歌第二編の編集に参加、そこに含まれる九四番・九五番など一三曲の歌詞を翻訳した。一九六九年四月名誉教授となったが、五月死去した（『関西学院大学経済学部五十年史』一九八四年、四三四～四三五頁）。また、彼の履歴・業績については『文学語学論集―田中彰寛先生退職記念―』（経済学部、一九六九年四月、一三七～一四二頁）を参照。
- (36) 『護教』第六二六号、一九〇三年七月二五日、一一頁。
- (37) 前掲書『神戸栄光教会七十年史』六〇頁、『南美以日本年会記録』第二期、四〇頁、*Year Book 1904*, p.49. 前掲書『広島女学院創立五十周年記念誌』六八頁。
- (38) 前掲書『神戸栄光教会七十年史』六〇頁。
- (39) 『南美以日本年会記録』第三期、一九〇四、一〇頁、一六頁。
- (40) 『時計台』No.七八、関西学院大学図書館、二〇〇八年四月一日、二八～二九頁。
- (41) 『護教』第七二四号、一九〇五年六月一〇日、一二二頁。
- (42) 『南美以日本年会記録』第一四期、一九〇五、一四頁。
- (43) 『京都御幸町教会百年史』日本基督教団京都御幸町教会、二〇〇四、二四頁。
- (44) 前掲「自筆 家族構成」。
- (45) 『護教』第八一〇号、一九〇七年二月二日、九頁。
- (46) 前掲書『関西学院百年史通史編I』二二二～二三三頁。
- (47) 『護教』第八四一号（一九〇七年九月七日、一三頁）、『関西文壇』第三号（一九〇七、六一頁、七一頁）。
- (48) 京都中央基督教会は、この年の七月二〇日に日本メソヂスト京都中央教会と名称変更された。前掲書『京都御幸町教会百年史』二七～二八頁、四二六頁。
- (49) 『日本メソヂスト教会西部年会記録』第一回（一九〇八年三月、一～三頁、五六頁）。なお、田中義弘の職名は京都教会主任牧師および関西学院教職員とされている。

但し、一九〇九年の『私立関西学院一覽』には神学部教授として記載。

- (50) 『日本メソヂスト教会西部年会記録』第二回（一九〇八年三月、三九頁）。
- (51) 「神学校職員名簿明治四四年」、学院史編纂室資料 DATA/。
- (52) 『関西学報』第七号（一九〇九年七月、六四頁）、前掲書『日本メソヂスト教会西部年会』第二回（九三頁）。
- (53) 『護教』第九二三号、一九〇九年四月三日、一五頁。
- (54) 『護教』第九三五号、一九〇九年六月二六日、一五頁。
- (55) 『護教』第九四二〜九四三号、一九〇九年八月一四〜二一日、一〜一二頁、一〇頁、第九五五〜九五六号、一一月二三日〜二〇日、七〜八頁、七〜八頁。
- (56) 『護教』第九七〇〜九七二号、一九一〇年二月二六日〜三月二二日、一〜一二頁、一〇〜一一頁、一一〜一二頁。
- (57) 『関西学報』第一〇号、一九一〇年七月、一四頁。
- (58) 『護教』第九八五号、一九一〇年六月一日、一四頁。
- (59) 『護教』第九八六〜九八七号、一九一〇年六月一八日〜六月二五日、一四頁、一四頁。
- (60) 『護教』第九八七〜九八八号、一九一〇年六月二五日〜七月二日、一五頁、一一〜一二頁。第九九〇〜九九一号、一九一〇年七月一六〜二三日、一三〜一四頁、一四頁。
- (61) 『護教』第九八七号、一九一〇年六月二五日、一五頁。
- (62) 『護教』第一〇〇六号、一九一〇年一月五日、五〜六頁。
- (63) 『関西学報』第一号、一九一〇年二月、一三五頁。
- (64) 『護教』第一〇一八号、一九一一年二月二八日、一五頁。
- (65) 『護教』第一〇二〇号、一九一〇年二月二一日、一四〜一五頁。
- (66) 「日誌—私立関西学院—」、一九一一年二月一〜一五日、学院史編纂室資料、AB\10-1/。
- (67) 『関西学報』第二号、一九一一年六月、九七頁。
- (68) 前掲書『神戸栄光教会七十年史』（六一頁）、『護教』第一〇二三号（一九一一年三月四日、一四頁）。
- (69) 『日本メソヂスト教会西部年会記録』第六回（一九一三、二七頁）、『関西学報』第一六号（一九一三年九月、七六頁）、前掲書『神戸栄光教会七十年史』六一頁。
- (70) 『関西学報』第一九号、一九一四年二月、一五八頁。
- (71) 『日本メソヂスト教会西部年会記録』第八回、一九一五、五五頁。
- (72) 『護教』第二二一五号、一九一四年一月三日、一三頁。
- (73) 『日本メソヂスト教会総会第三回記録』（一九一五、一六頁）、前掲書『神戸栄光教会七十年史』（六一頁）。
- (74) 『日本メソヂスト教会総会第四回記録』、一九一九、一八頁。
- (75) 『関西学院七十年史』、一九五九、三六七頁。
- (76) 前掲書『神戸栄光教会七十年史』六一頁。

- (77) W・R・ランバス監督はこの年の九月二十六日に死去。
- (78) 前掲書『関西学院七十年史』(三六六頁)、前掲書『神戸栄光教会七十年史』(六一頁)。
- (79) 『開校四十年記念 関西学院史』、一九二九、一七〇、七二頁、年表一二頁。
- (80) 前掲書『関西学院七十年史』三六七頁。
- (81) 『教界時報』第一七八九号(一九二六年二月一九日、六頁)、『日本メソヂスト教会總會第六回記録』(一九二七、二六頁、五五頁)。
- (82) 『教界時報』第一七九六号(一九二六年四月九日、六頁)、前掲書『開校四十年記念 関西学院史』(年表一五頁)。
- (83) 『教界時報』第一八一七号、一九二六年九月三日、七頁。
- (84) 『教界時報』第一八二九号、一九二六年一月二六日、三頁。
- (85) 前掲書『関西学院百年史通史編Ⅰ』四四〇頁。
- (86) 中村賢二郎「逝きし原田の森の友を偲ぶ」(前掲書『関西学院七十年史』四三六頁)。
- (87) 前掲書『開校四十年記念 関西学院史』一七七〜七八頁。
- (88) 前掲書『関西学院百年史通史編Ⅰ』四五三〜五五頁。
- (89) 前掲書『関西学院七十年史』(三七〇頁)、前掲書『神戸栄光教会七十年史』(六一頁)。
- (90) 杉原成義は日本メソヂスト教会横浜戸部教会牧師で、

田中義弘 家族構成 (系図)



東京青山のフラインデル・スミス・メソヂスト一致神学校時代の同級生である(「杉原成義」前掲書『信仰三十年基督者列伝』二二七頁)。

(伊藤笠子・井上琢智)